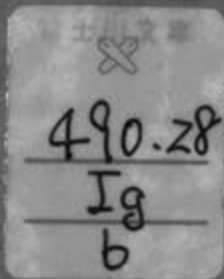


醫學家譜



七

六百石
四百石
三百石
二百石
一百石

目錄

阿保
河津
千原
平田



富士川文庫

255

490.28

I

No. 2278
12 1111

富田家藏本

醫業家譜卷七

目錄

六百石
五百石
五百石
四百五十石
三百俵
二百俵
三百俵
三百俵

阿倍長徳院 正製
井關玄悦 醫甫
伴道與 采清
奈須玄行
千田玄知 法眼
千賀道有 芳久
平田道祐
平井省菴



二百俵十人扶持

二百俵

二百俵

二百俵

二百俵

二百俵

百俵十人扶持

百俵十人扶持

百俵十人扶持

二百俵

百俵

大膳亮好菴

大膳亮玄碩

望月三英

内田元勝

津輕意伯法眼

津輕玄哲

伊達本覺

笠原良玄法眼

笠原養珉

關本伯典

關本春臺

道清

彦好

景永

壽秀

二百俵

百六十七俵

七十八俵十人扶持

百俵十人扶持

十五人扶持

三百俵

百八十俵

二百石

二百二十俵

二百俵

二百俵

服部了伯

坂本養順

坂本養菴

川島宗瑞法眼

川島周菴

和田春長

廣井孝達

人見又玄法眼

天野良雲

小柴池菴

田代宗碩

利用

資堅

政俊

正定

為盛

百俵三十人扶持

百五十俵

百俵五人扶持

百俵二十人扶持

百俵五人扶持

百俵五人扶持

二百俵

二百俵

百五十俵

百六十俵

二十人扶持

宮村永菴

田中俊菴

馬島瑞伯

元英

本康碩玄

本康宗壽

本賀順昌

長尾全菴

伊東高仙

前田元長

利長

塩田宗采

保定

塩谷桃菴

百俵五人扶持

百俵五人扶持

百俵五人扶持

百七十俵

百俵三人扶持

二百俵

二十五人扶持

十五人扶持

二十人扶持

二十人扶持

二百俵

兼康米順

了禎

赤松休菴

義隆

昌山丑隆

常邦

園井三齋

道博

芥川小野寺

元珍

芥川元泰

古田休甫

古田瑞琢

小崎三省

安藤安貞

上領玄碩

利岑

二百俵

二百俵

百五十俵

百俵四人扶持

二百俵

二百俵

二百俵

二百俵

御當代

二百俵

二百俵

西 玄哲

野呂元敬

田中俊菴

渡辺立軒法眼

篠崎朴菴

町谷玄悦

池原雲伯

高島良玄

宮崎元養法眼

太田元達法眼

長正

師蕃

二百俵

二百俵

柴田玄泰法眼

福井立助



高六百石

右折申々

阿倍長徳院 正製

阿倍少少老皇天皇代末々々々安倍此姓々々々々元祐
陽々直々々世々々歴々業々々々々名宗と稱々々々々々々々
中具此祖阿倍七西院頃貞人ハ初世此長歴々々々々々々々

言徳々々朝々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

大猷之此清代々々切在百信々々々々々々々々々々々々々々

二年乙酉此年十一月廿九日此加務之百之令々々々々々々々々

御中々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

五月二十三日... 長徳院教... 宗
 育... 七... 年
 ...
 ...

常言... 此... 代... 岡門... 山... 徳... 院... 徳... 入...

藝... 年... 年... 年... 年... 年...
 ...
 ...

高

... 長... 徳... 院... 直... 徳... 院...

高

... 徳... 院... 直... 徳... 院...

... 法... 名... 自... 此... 院... 觀... 天... 言... 瑞... 集... 行... 園...

十二ノ子ノ一ノ物也一ノ子ノ名ヲ法名專稱院念言感
 月道應と号すこと長徳院正廣と号すこと長徳院
 又高徳と号すこと高徳院正徳と号すこと高徳院

阿信家系圖

品 順貞

阿倍長徳院 宮内卿 法印 六百石

瑞化

長徳院

瑞運

長徳院

女子

今村彦兵衛長祥妻

女子 坂井左門政妻

正直

瑞春 長徳院

正廣

長徳院

正判家

長徳院

長伯

市重丞

女子

大岡敦貞妻

女子

徳三郎

女子三人

高五百石

下台煉屏少

井開祐悦

照甫

井開祐悦ハ長徳院ノ子トシテ高徳院ノ御孫トシテ
 及トセテ美佐郡成多ノ前田村御利井開ハミマシテ
 出ル女系トシテ因村トシテ井開氏トシテ若菜宗女トシテ井開
 玄親常甫ハ御孫トシテ書務トシテ長徳院ノ御孫トシテ
 トシテ一ノ高徳院ノ御孫トシテ高徳院ノ御孫トシテ
 高徳院ノ御孫トシテ高徳院ノ御孫トシテ高徳院ノ御孫トシテ
 高徳院ノ御孫トシテ高徳院ノ御孫トシテ高徳院ノ御孫トシテ

養育の功徳ありて... 徳業一色を執して... 高... 養育の功徳ありて... 徳業一色を執して... 高... 養育の功徳ありて... 徳業一色を執して... 高...

又保良局事務... 養育の功徳ありて... 徳業一色を執して... 高... 養育の功徳ありて... 徳業一色を執して... 高...

御子の法服に叙せられしに初は法皇の御孫に叙せし李徳俊
と稱し然るに元文の年遷居せられたりしに故一統に在り
法皇と李徳俊李徳俊懐安世御孫と号せしに之を後祿甫
ハ元文の年遷居せられたりしに又李徳俊法皇の建保の年と
稱ししに今これ列せらるるに宣徳十三年を述せたりしに
隱仁の年和上とて七十七の年を故一統に在りしに
法皇と徳林院懐安世御孫と号せしに故一統に在りし
十三年を述せられたりしに故一統に在りしに故一統に
在りしに又初は執政元孝政元を以て初とて後馬
初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は
初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は
初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は
初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は

井闈家系圖

法皇を降持院戒容義光行善とししに法皇法皇ハ
天保二年遷居せられたりしに又初は初は初は初は初は
初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は初は

常甫

井闈玄説法眼 蓀真菴 賜五百石

祐甫 正伯 善真院法眼 册林一之進女 高木元濟 妻
女子 册同

政甫

玄園玄説孝宗院法眼

職甫

玄説

正伯

照甫

祐悦

高五百石

伴道與 米清

高五百年之長壽此名譽と以て之存三年米此
秋カ一もろく一也々々

常言と一也一也此屋師之所作れ物初也
二百石と一也一也此信取今百石之地
乃免物不富永十年と一也一也
一也一也一也一也一也一也一也
期一也一也一也一也一也一也一也
兼一也一也一也一也一也一也一也

高四百五十石 奈須玄竹 恒

高四百年之長壽此名譽と以て之存三年米此
秋カ一もろく一也々々

大猷之礼高名例也世の賜業と云ふ信て下るれ幸得
二百石と一也一也此信と物也一也一也
一也一也一也一也一也一也一也
法守り之氣せしは

ハ一キリノコトニレニ保ノ年等ミテ一ケルニキレノ年ナリト
チロノコトニシキククノコトニキレノ年ナリト
有徳ノコトニシキククノコトニキレノ年ナリト
辛ノコトニシキククノコトニキレノ年ナリト
建徳ノコトニシキククノコトニキレノ年ナリト
ノコトニシキククノコトニキレノ年ナリト
ノコトニシキククノコトニキレノ年ナリト
ノコトニシキククノコトニキレノ年ナリト
ノコトニシキククノコトニキレノ年ナリト
ノコトニシキククノコトニキレノ年ナリト

德行考

高三百依

千田玄知法眼恭副

千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト
千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト
千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト
千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト
千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト
千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト
千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト
千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト
千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト
千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト
千田玄知法眼恭副ノコトニキレノ年ナリト

二百俵と物...
 高二百俵

高二百俵

千賀道有 芳久

子...
 貴...
 加...
 加...
 加...

後...
 中...
 中...
 中...

子...
 子...
 子...
 子...

千賀家系圖

紋丸門九布寄

千賀養圓

道有

道有 芳久

女子

女子
 道有 妻

女子
 本田 頼母 妻

女子
 村山 三郎 在門 養子 妻

道隆 久頼

高御醫師百俵

安悦

養圓

女子

辻甚太郎 妻

養女

實 白井 郡平 女

養女

實 狩野 養川 院 惟信 妻

女子

實 神山 新在 門 女
 孫崎 北卷 長正 妻

坪内 磨

坪内 命 節 定 妻
 養子

道實

谷部 元 野 養子

女子 坂本 養安 妻
 實 同性 養子 女

三郎

小傳馬町所並屯

高三百俵

平田道祐

平田及有ハ良慶代ノ名声ニシテ

慶長有之此朝ノ下ニシテ此ノ慶文二年ニ至リテ

三百俵トシテ後ノ世トシテ

平田仙壽ハ宝永三年ニ至リテ

三百俵トシテ福永丹後トシテ

他ノ世トシテ道祐トシテ

平田仙久ハ正徳三年ニ至リテ

三百俵トシテ

平田仙久ハ正徳三年ニ至リテ

三百俵トシテ

平田仙久ハ正徳三年ニ至リテ

三百俵トシテ

平田仙久ハ正徳三年ニ至リテ

三百俵トシテ

平田仙久ハ正徳三年ニ至リテ

三百俵トシテ

平田仙久ハ正徳三年ニ至リテ

三百俵トシテ

平田仙久ハ正徳三年ニ至リテ

高 信行といふく書信は他は右右也とす此よりいふに
るといふと問ふ事知ると信とて二百俵とす後一十俵なり

十の西抄本後

高三百俵

平井省菴

平井中ハ梅如くして南田ハ山陰内ノ花書と以て
信とてり平井ノ信といふ者醫者印者信て
南田ハ信といふも此ハ信書用といふて品如來三百俵と
物也〜 其書ハ連條といふ者菴といふ

高二百俵三十人扶持

大膳亮好菴

大膳亮好菴カハ古田中庵平野北條ふれとす後とす
九ノ三ノ條と信とてり中庵好菴ハ今とあり五書院道
ニノ門ノノく一書とて多ハ印璽琢磨ハ所とい信
上とて一書信書群丹と信一たりと信とて信應元年
壬辰十二月

菴有とてり信とてり信とてり信とてり信とてり信とてり
由信原九レリ此ハ後と信とてり信とてり信とてり信とてり
信とてり信とてり信とてり信とてり信とてり信とてり信とてり

中流百俵より人使物とりとれ又ねとくよ日記及び移書
しうり百俵元年、甲子十丁卯、中流百俵の記
少の百俵全せり二の百俵人使物とりとれは元禄三年、庚午
三丁卯

鶴屋君の跡をせられ中流百俵全せり此の百俵三十人使物と
口平四年、辛子、中流百俵一、それより大膳亮、寛永八、十、十二、
十四、十六、十八、二十年、辛子、廿一、廿二、廿三、廿四、廿五、
廿六、廿七、廿八、廿九、三十、人使物とりとれ、此の二百俵
全せり此の百俵とくよ、寛永四年、己亥、十丁卯、此の百俵、寛永八、
十、十二、十四、十六、十八、二十年、辛子、廿一、廿二、廿三、
廿四、廿五、廿六、廿七、廿八、廿九、三十、人使物とりとれ、
此の百俵、寛永八、十、十二、十四、十六、十八、二十年、辛子、
廿一、廿二、廿三、廿四、廿五、廿六、廿七、廿八、廿九、三十、

大膳

いふれ大膳亮好庵より

寛永

高二百俵

大膳亮玄碩 道清

大膳亮好庵より、寛永一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、
二十八、二十九、三十、大膳亮玄碩より、寛永一、二、三、四、
五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、
十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、
二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、大膳亮玄碩より

寛永

高二百俵

望月三英 彦好

寛永十七年、高橋より、寛永十七年、中流百俵、此の百俵、
寛永一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、
十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、
二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、

東照

張彦乃法海の記

東照宮の祈禱——外科の醫術を令せしむる事

高

百五十年の九月廿九年甲寅此の古蹟に由りて修むる所
中より修むる味方氣孔の由りて修むる所と申すは
此の古蹟に由りて修むる所と申すは又古蹟に由りて修むる所と
申すは又古蹟に由りて修むる所と申すは又古蹟に由りて修むる所と
申すは又古蹟に由りて修むる所と申すは又古蹟に由りて修むる所と

台徳の遺蹟——
高 於此の遺蹟に由りて修むる所と申すは又古蹟に由りて修むる所と

高 於此の遺蹟に由りて修むる所と申すは又古蹟に由りて修むる所と

大跡の遺蹟——

言ふ又四年甲辰此の古蹟に由りて修むる所と申すは又古蹟に由りて修むる所と

影の遺蹟——

念の遺蹟——

と申すの遺蹟——

脚平代の遺蹟——

信と新の遺蹟——

近宮の遺蹟——

常の遺蹟——

法名の遺蹟——

子との遺蹟——

法名の遺蹟——

福の遺蹟——

高二百俵

内田元勝

内田家ハ有年此... 孝列女也長子... 其の...
其の... 洛陽... 又此... 其の...
其の... 其の... 其の...

其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...

其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...

其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...

其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...
其の... 其の... 其の...

二百倍と云はれりは、
津師の事、
今此を論じしは、

高二百倍

津師意伯法眼使壽

津師の事、
流るるは、
しるるは、
東國の事、
今此を論じしは、

今此を論じしは、
津師の事、
流るるは、
しるるは、
東國の事、
今此を論じしは、

隆平一子子津恒初居由磐二而居と云は
言はは由りといふと云ふと云ふと云ふ

中田の巻

高二百俵

津輕玄哲

津恒を指り由は八津恒を養ふと云は種は名譽なり
寛文二年云は此十子あり初初と云はこれ百俵人住は
下り九り十二年云は此十子あり初初と云はこれ百俵人住は
此免於令し百俵と云はこれ百俵人住は
この津恒を指り由は八津恒を養ふと云は種は名譽なり
下り九り十二年云は此十子あり初初と云はこれ百俵人住は

伊達本覺

高百俵十人扶持

伊達本覺 景永

伊達本覺の扶持十人扶持
高百俵十人扶持
伊達本覺の扶持十人扶持
高百俵十人扶持

高百俵十人扶持
伊達本覺の扶持十人扶持
高百俵十人扶持
伊達本覺の扶持十人扶持
高百俵十人扶持
伊達本覺の扶持十人扶持
高百俵十人扶持
伊達本覺の扶持十人扶持

十二のりて又ある海成の信子人信子と云はる
 少き信成の信子と云はる子孫の信成の信子と
 して今れ七の信子と云はる

七の信子

高百儀十人扶持

菅原良玄法眼正壽

菅原良玄の信子と云はる世の信成の信子と云はる
 信成の信子と云はる世の信成の信子と云はる
 信成の信子と云はる世の信成の信子と云はる

大敵の信子と云はる信成の信子と云はる
 信成の信子と云はる世の信成の信子と云はる

信成の信子と云はる信成の信子と云はる
 信成の信子と云はる世の信成の信子と云はる
 信成の信子と云はる世の信成の信子と云はる

菅原の信子と云はる信成の信子と云はる
 信成の信子と云はる世の信成の信子と云はる
 信成の信子と云はる世の信成の信子と云はる

世々... 高百俵十人扶持

高百俵十人扶持

笠原養珉

... 高百俵十人扶持

高二百俵

關本伯典

大蔵... 高二百俵

大角 幸一子あり心か母に而後月年十人おあるといふれ

修しおあはるゝ部合に而後より

とて此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

りこれの世に而後より又他曲に其の曲に而後

高 壽をえとて此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

とて此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

高 長死とて此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

とて此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

高 百俵 関本春臺 壽秀

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

高 此の世に而後より又他曲に其の曲に而後

高二百表

服部不伯

張紙巾ハ巾多何如きううゆて平紙くくして八半半此内ノ
 定年占と信くして巾他張紙う伯といふ其厚例考過此
 高ノくくして信人をもと信をもくくする一其あふ年と七半ノく
 大敵くくして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 その中にも張紙う伯といふ信くして信くして信くして信くして信くして
 中紙二の信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 こころ他ノ信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 歳方より信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして

中紙二の信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 こころ他ノ信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 歳方より信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 中紙二の信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 こころ他ノ信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 歳方より信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして

高百六十七表

坂本養順 利角

板巾ハ巾多何如きううゆて平紙くくして八半半此内ノ
 定年占と信くして巾他張紙う伯といふ其厚例考過此
 高ノくくして信人をもと信をもくくする一其あふ年と七半ノく
 大敵くくして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 その中にも張紙う伯といふ信くして信くして信くして信くして信くして
 中紙二の信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 こころ他ノ信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして
 歳方より信くして信くして信くして信くして信くして信くして信くして

妙科此一處と稱して坂中養翁といふ云々七年中

東照宮より消えしと云ふ云々妙科 諸列大御方の長師と

云々これ妙科此の事といふ云々云々

高 口子年 甲戌 此形免うて云々云々

大敵之北少時より傳ふと云々云々 梅田内殿妙科

此の處より云々の事と云々云々

大敵と云々云々 宣水元年 甲申 坂中移入し

少き後此井と對する事と云々云々

坂中馬口年 甲申 此の事と云々云々

井ノ對する事と云々云々 此の處より云々云々

云々云々云々 此の事と云々云々

此の處より傳ふ事と云々云々 坂中移入し

云々云々云々 此の事と云々云々

云々云々云々 此の事と云々云々

云々云々

高七十八俵十人扶持 坂本養菴 資堅

此の處より云々の事と云々云々

此の處より云々の事と云々云々

西千正一云々云々 此の事と云々云々

此の處より云々の事と云々云々 此の事と云々云々

高百俵十人扶持
 天明九年己酉正月
 廿四日死去
 資直 養春 養安 資堅 養琳
 資明 資本 資秀
 養春 養安 資堅 養琳
 資明 資本 資秀
 養春 養安 資堅 養琳
 資明 資本 資秀

坂本家系圖

品坂本養春

始賜百俵十口

資本

養貞 養長女 養長子

資秀

酒之丞 養貞 養長子 實藤山連右門 資明 三男

資直

養春

資明

資堅

養安 資堅

養琳

天明九年己酉正月
廿四日死去

資明 篠山吉之助

資堅 兄養

實養安三男

高百俵十人扶持

川島宗瑞 法眼 昌吉

陽信五郎下

川島宗瑞 法眼 昌吉
 陽信五郎下
 高百俵十人扶持
 天明九年己酉正月
 廿四日死去
 資直 養春 養安 資堅 養琳
 資明 資本 資秀
 養春 養安 資堅 養琳
 資明 資本 資秀
 養春 養安 資堅 養琳
 資明 資本 資秀

少之川内門下

高十五人扶持

川島周菴 政俊

川島周菴としの妙科此長徳ありてゆかりききし

大猷よりむとれ妙科此徳ありてゆかりききし

百保の年女ふてりちちりえ 清徳此此徳と各せられ

口や月四えとしは小徳無之年たるは徳死を口年なり

因名直徳此二百保とあり用保より徳作せられゆかり

高周菴と改免しりえ徳三年一平九なりとあり徳あり

清の徳なり年なりとありれこの徳 百とれに人十里なり

此徳ありて日本三年を長てりて 此徳ありと世ありて

三年に己たりりゆかり 百とれ 清徳ありて

富中七年を長たりてこの徳ありて人徳ありて少き徳あり

とくこの保の年なりとありて徳ありてとあり徳ありて

十の人の徳ありとあり徳ありてこの徳ありてとあり徳あり

名徳ありとあり

高

表接書所

高三百俵

和田春長 正定

和田春長とありて徳ありてとあり徳ありてとあり徳あり

とあり徳ありてとあり徳ありてとあり徳ありてとあり徳あり

常憲の代母西醫所より一山切年三百倍と物あり
権後死後山中留る二百倍と云はるる一山切年田と
名をきくとみえくく一山切年と云はるる

高百八十俵

高百八十俵

高百八十俵

廣井孝達

廣井ハ古國丹波守なり一山切年一山切年と云はるる
山切年廣井守年ハ名高きく一山切年一山切年一山切年
十山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年
一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年
又守年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年

死せり一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年
一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年

中業アハ情れ山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年
一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年

常憲一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年
一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年

廣井守年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年
一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年

守年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年
一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年

守年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年
一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年一山切年

下三長女所

高二百石

人見又云法眼

人見の中ハ古國東武ノ少也然ル中身其後人見又徳
了之徳賢如ハ洛陽ノ古也 禁程此少區多所カ
寛永十四年ノ七

寛永十四年ノ七

千代姫也此胎也此少臨抱ノ事言事也下也此少事也
御多ノ快也ノたノ事也後ノ口ノ事也千四百ノ事也
命也これ少也此少也此少也此少也此少也此少也

若君也從中此少事也物一是ノ事也此少也此少也
少也此少也此少也此少也此少也此少也此少也

五百石と物一也此少也此少也此少也此少也
以令快也此少也此少也此少也此少也此少也
瑞祥院と移して此少也此少也此少也此少也
此少也此少也此少也此少也此少也此少也
西村村此少也此少也此少也此少也此少也
書藉此少也此少也此少也此少也此少也
傷者此少也此少也此少也此少也此少也
此少也此少也此少也此少也此少也此少也
此少也此少也此少也此少也此少也此少也
此少也此少也此少也此少也此少也此少也

大九ノ市多ノ師... 高野良雲ノ...

人見家系圖

〇〇竹

人見又七郎左徳

賢知

又七郎左徳 大九ノ法仰瑞祥院賜七百石

長太郎 早世

女子

宜卿

又七郎 左元

儒官

心太

正竹

浩

元治後七郎左門

陸

杏樹院法印

福

七之郎

正

金右門

女子

大由盛

大久保甚五郎門甚

女子二人

息義

甚四郎

清水内多吉

行充

又七郎元治改又兵衛

美在

又七郎又兵衛

美至

七藏又兵衛

在信

又兵衛

行高

玄徳

拾

友説

在信

高栄法眼

保民

水原次郎右門

水原酒左門保高養子

寛保三年壬戌八月廿六日養子

實母家女

分知三目市番醫師宗合

實同姓又兵衛美在二弟

實同姓又兵衛美至三弟

高二百廿俵

天野良雲

天野良雲此從天野良雲... 此由良雲子...

延宝八年 壬申 津和野之移りて少切糸二百俵を金取りて

御上五和之年 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申

長元三年 壬申 長元三年 壬申 長元三年 壬申 長元三年 壬申 長元三年 壬申

高 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申

壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申 壬申

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

甲申 甲申 甲申 甲申 甲申 甲申 甲申 甲申 甲申 甲申

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

高二百俵 小糸池菴 鳥盛

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵 少切糸 二百俵

高 二百俵 高 二百俵 高 二百俵 高 二百俵

高二百俵

田代宗碩

田代宗碩は高二百俵の領主として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地を、中川村に譲渡した。この領地は、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、

文照

文照は高二百俵の領主として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、
高二百俵の領地として、寛文九年（1724）に、

高百俵三十人扶持

宮村永菴

宮村永菴は高百俵三十人扶持の領主として、寛文九年（1724）に、
高百俵三十人扶持の領地として、寛文九年（1724）に、
高百俵三十人扶持の領地として、寛文九年（1724）に、
高百俵三十人扶持の領地として、寛文九年（1724）に、
高百俵三十人扶持の領地として、寛文九年（1724）に、
高百俵三十人扶持の領地として、寛文九年（1724）に、
高百俵三十人扶持の領地として、寛文九年（1724）に、
高百俵三十人扶持の領地として、寛文九年（1724）に、
高百俵三十人扶持の領地として、寛文九年（1724）に、
高百俵三十人扶持の領地として、寛文九年（1724）に、

御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...

御成代御成代

御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...

御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...

御成代御成代

高百依五人扶持

本康宗壽

御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...
御成代御成代御成代...

高仙はもと 藤原基元の子を尊と号す 藤原基元は名 養長 壽院 有山 日致 と云
そは長尾分若ハ定又十二年 乙未 七月 十日 丁未 乙未 七月 十日
ナラニヤキ

有章はもと 高仙の子を尊と号す 高仙十年 乙未 七月 十日 丁未 乙未 七月 十日
高仙はもと 高仙の子を尊と号す 高仙十年 乙未 七月 十日 丁未 乙未 七月 十日

高仙はもと 高仙の子を尊と号す 高仙十年 乙未 七月 十日 丁未 乙未 七月 十日
高仙はもと 高仙の子を尊と号す 高仙十年 乙未 七月 十日 丁未 乙未 七月 十日
高仙はもと 高仙の子を尊と号す 高仙十年 乙未 七月 十日 丁未 乙未 七月 十日

高二百俵

表二百所

伊東高仙

伊東はもと 高仙の子を尊と号す 高仙十年 乙未 七月 十日 丁未 乙未 七月 十日
伊東はもと 高仙の子を尊と号す 高仙十年 乙未 七月 十日 丁未 乙未 七月 十日
伊東はもと 高仙の子を尊と号す 高仙十年 乙未 七月 十日 丁未 乙未 七月 十日

宣徳二年三月廿一日...
 河川降心...
 高倉休島...
 宣徳三年...
 吉田元年...
 宣徳四年...
 宣徳五年...
 宣徳六年...
 宣徳七年...
 宣徳八年...
 宣徳九年...
 宣徳十年...

宣徳二年三月廿一日...
 宣徳三年...
 宣徳四年...
 宣徳五年...
 宣徳六年...
 宣徳七年...
 宣徳八年...
 宣徳九年...
 宣徳十年...

伊東家系圖

○高祐朝

伊東高雪

高雪

實天野傳左門三男

高運

山奔

祐貞

高仙

祐至

高雪法眼

至善

高益法眼

祐匡

高與

江戶幕所為別家

女子

祐至妻

安信

匹田三郎

女子

小林半助政苗妻

幸純

沢次郎右門

女子

大膳亮好菴妻

女子

二又天

小膳

文

高百五十俵

前田元長 利長

昔年... 前田元長... 利長...
 高百五十俵... 前田元長... 利長...
 高百五十俵... 前田元長... 利長...
 高百五十俵... 前田元長... 利長...
 高百五十俵... 前田元長... 利長...
 高百五十俵... 前田元長... 利長...
 高百五十俵... 前田元長... 利長...
 高百五十俵... 前田元長... 利長...
 高百五十俵... 前田元長... 利長...
 高百五十俵... 前田元長... 利長...

山本町南割り

高百六十俵

塩田宗栄 保定

塩田ハ本國御中一若手仕立〜野村御中〜
 二番御中門御中〜
 此の御中〜
 寛永十一年〜
 文眼〜

若手所出〜
 此の御中〜
 寛永十一年〜
 文眼〜

減り〜

知行卷

高二十人扶持

塩谷挑菴

塩谷中ハ本國御中〜野村御中〜
 此の御中〜
 寛永十一年〜

出常書〜
 此の御中〜
 寛永二十一年〜

りてん初のとくく... 古部... 柳...

高百俵五人扶持

兼康業頃公禎

赤松兼康業頃公禎... 此中... 辛卯...

有幸... 此中... 下俵...

又... 此中... 下俵...

~~~~~

此中...

高百俵五人扶持

赤松休菴 義隆

村上... 此中... 下俵...

常...

此中... 下俵...

高百俵五人扶持

昌山王隆 常邦

白河の川に在りて我の上徳平長業の末師也其師  
言種々の代り白河の傍に在りて常久の末師也其師  
鑄造師各各其師居りて其師の末師也其師居りて  
新造の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて

高百七十俵

岡井立齋 道博

常言の代り白河の傍に在りて常久の末師也其師  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて  
其師の末師也其師居りて其師の末師也其師居りて



古田の古田体甫の科は名譽とありて  
極田の極田の科は月信の科は甲子の科は  
七の科は七の科は七の科は七の科は  
十の科は十の科は十の科は十の科は  
元年の科は元年の科は元年の科は元年の科は

古田の科は古田の科は古田の科は古田の科は

高十五人扶持

古田瑞球

古田の古田体甫の科は名譽とありて  
極田の極田の科は月信の科は甲子の科は  
七の科は七の科は七の科は七の科は  
十の科は十の科は十の科は十の科は  
元年の科は元年の科は元年の科は元年の科は

古田の科は古田の科は古田の科は古田の科は

古田の科は古田の科は古田の科は古田の科は

高二十人扶持

小崎三省

古田の古田体甫の科は名譽とありて  
極田の極田の科は月信の科は甲子の科は  
七の科は七の科は七の科は七の科は  
十の科は十の科は十の科は十の科は  
元年の科は元年の科は元年の科は元年の科は

古田の科は古田の科は古田の科は古田の科は

古田の科は古田の科は古田の科は古田の科は

古田の科は古田の科は古田の科は古田の科は

古田の科は古田の科は古田の科は古田の科は

この時えり書きたる者数直と云ふ由天師と云ふ

小川町中保少少

### 高二十人扶持

安友安貞人

安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり  
安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり  
安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり  
安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり  
安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり  
安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり  
安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり  
安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり  
安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり  
安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり

### 高二百俵

上領玄碩 利岑

又安友中ハ古國三河を治りしと云ふ者と云ふとせり

有徳之湯入

二百俵と云ふれきふれ也  
二百俵と云ふれきふれ也  
二百俵と云ふれきふれ也  
二百俵と云ふれきふれ也  
二百俵と云ふれきふれ也  
二百俵と云ふれきふれ也  
二百俵と云ふれきふれ也  
二百俵と云ふれきふれ也  
二百俵と云ふれきふれ也  
二百俵と云ふれきふれ也

この子に利を分るる事二百俵と申す

高百五十俵

高二百俵

西玄哲

高百五十俵

高百五十俵

高百五十俵

高百五十俵

高百五十俵

高二百俵

野呂元敬

野呂元敬

野呂元敬

野呂元敬

野呂元敬

野呂元敬

野呂元敬

野呂元敬

野呂元敬

高百五十俵

田中後菴



元年... 法和... 高... 法和... 高... 法和... 高... 法和... 高... 法和... 高...

法和... 高...

**高百俵四人扶持**

渡邊立軒法眼 善久

法和... 高... 法和... 高... 法和... 高... 法和... 高...

法和... 高... 法和... 高... 法和... 高...

法和... 高...

**高二百俵**

篠峰 卍菴 長正

法和... 高... 法和... 高... 法和... 高... 法和... 高...



〇〇町谷半右衛門

元格

浪人町醫所

女

浪人

関口佐左門妻

師政

元悦法眼

杵栗田治右門女  
始賜二百俵

杵仙

勝本了佐養子  
杵家女

半右門

俗醫師常丹養子崎住

貴園口佐左門二男

女子

荻野仁左門妻

女子

養子半右門妻

女子二人

師蕃

金次郎元悦  
家督三百俵

麻布市多富町

高二百俵

池原雲伯

池原ハ古名本女と稱シ一、為系好く本國ハ山崎ノ一トて花丸  
兼と後とせり西之伯子月ハ慶長ノ一ツて個川神中より柱物とて  
たり一、安永四年乙未十一月

後明より下せられ重正ハ慶長ノ一ツて重正ノ一ツて重正ノ一ツて  
法勝ノ氣せられ重正ノ一ツて重正ノ一ツて重正ノ一ツて  
百五十五俵とせり一、重正ノ一ツて重正ノ一ツて重正ノ一ツて

高二百俵

高嶋良玄 久則

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

せり高嶋秋菴の長八良藤のちより半尾をとりて

尾羽の尾中より半尾をとりて

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

高二百俵

宮崎元養 高篤

高二百俵

太田元達 惟能

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

高嶋のちの半多原牛の尾中より半尾をとりて

若石梅舟也... 法成子叙せり

高二百俵

葉田玄恭

高千穂元年 辛卯... 叙せり

高千穂元年 辛卯... 叙せり

高千穂元年 辛卯

高二百俵

福井益之進

福井八十七國母... 叙せり

福井八十七國母... 叙せり

Kitasato Memorial Medical Library